

令和3年度セクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について（概要）



令和4年5月18日
千葉県教育庁教育振興部教職員課
電話 043-223-4036

令和3年度に実施した、公立学校の児童生徒及び職員を対象としたセクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果がまとまりましたので、その概要を報告します。

この調査は、各学校が、学校におけるハラスメント及び体罰に関する実態を把握し、効果的に防止策を講じ、よりよい学校環境をつくるために実施しているものです。

1 調査方法等

(1) 調査対象

千葉市立学校及び市立高等学校を除くすべての公立学校に在籍する児童生徒474,823人及び職員42,810人

(2) 調査対象期間

令和3年4月1日（木）から回答日まで

(3) 実施期間

令和3年12月1日（水）から令和4年1月31日（月）まで

(4) 実施方法

ア 児童生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

イ 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

2 調査結果の概要

(1) セクハラ実態調査の結果について

ア 児童生徒

セクハラと感じ不快であったと回答した児童生徒の人数

年度	令和3年度			令和2年度		
	回答者数	セクハラと感じ不快であったと回答した人数	児童生徒100人当たりの人数	回答者数	セクハラと感じ不快であったと回答した人数	児童生徒100人当たりの人数
県立高等学校	84,037	174	0.21	86,590	224	0.26
特別支援学校	5,564	15	0.27	5,665	18	0.32
中学校	115,108	136	0.12	114,723	153	0.13
小学校	236,351	56	0.02	248,685	148	0.06
合計	441,060	381	0.09	455,663	543	0.12

※ 令和2年度と比較して減少傾向にあり、100人当たり0.09人であった。実数で見ると、令和2年度の543人から381人に162人減少している。

※ 主な回答は、「不必要に身体に触られ、不快であった。」「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」というものであった。

セクハラ以外のハラスメントを受け不快であったと回答した児童生徒の人数

年度	令和3年度			令和2年度		
	児童生徒 回答者数	セクハラ以外の ハラスメントを受け 不快であったと 回答した人数	児童生徒 100人当たり の人数	回答者数	セクハラ以外の ハラスメントを受け 不快であったと 回答した人数	児童生徒 100人当たり の人数
県立高等学校	84,037	183	0.22	86,590	162	0.19
特別支援学校	5,564	15	0.27	5,665	23	0.41
中学校	115,108	71	0.06	114,723	104	0.09
小学校	236,351	463	0.20	248,685	1,321	0.53
合計	441,060	732	0.17	455,663	1,610	0.35

※ 100人当たり0.17人であった。回答の多くは、「性格や能力を否定されるようなものの言い方をされた。」「先生が大声で怒鳴ったり、乱暴な言葉を発したりする。」等といった教員の発言や対応等によるものであった。

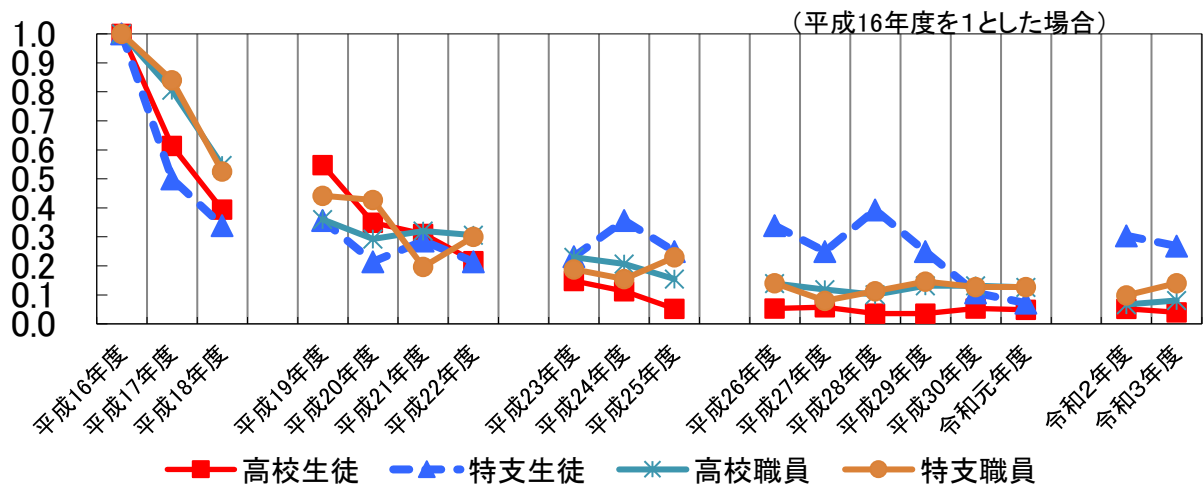
※ 調査結果を踏まえ児童生徒本人と面談をする等状況を確認したところ、教員から児童生徒に対するセクハラ及びセクハラ以外のハラスメントの具体的相談について、処分等にあたるものはなかった。

イ 職員

県立高等学校，特別支援学校では，71人の職員がセクハラであると感じたと回答した。令和2年度の55人と比較すると16人増加している。

セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）

回答数の増減率



(2) 体罰実態調査の結果について

アンケート調査の結果，体罰の報告はなかった。

- ・高等学校生徒 0件 (0件)
- ・特別支援学校児童生徒 0件 (0件)
- ・小学校児童 0件 (0件)
- ・中学校生徒 0件 (0件)

※ () 内は令和2年度

3 今後の対策

セクハラ及び体罰の根絶に向けて，引き続き，セクハラ防止に向けたパンフレットやリーフレットを活用し，教職員及び児童生徒への啓発を図るとともに，教職員に対し，リーフレット「わいせつな行為の根絶に向けて～教職員一人一人の自覚にかかっています～」を活用するなど，参加型の研修を行うこと等により，職責の重要性の自覚を高め，より人権に配慮した対応を指導していく。また，児童生徒に対し，自他の人権に対する意識をより深めるよう指導していく。

問い合わせ
教育振興部教職員課管理室
電話 043-223-4036

令和3年度セクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について【データ編】

調査方法等について

1 調査対象

すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童生徒及び職員（千葉市立学校及び市立高等学校を除く。）を対象とし、児童生徒においては、「学校生活アンケート」として実施。

※ 小学校の児童及び特別支援学校の児童生徒については、家庭に持ち帰る等の対応による調査を行った。

※ 義務教育学校の人数は、当該小学校・中学校に含めて集計を行った。

※ 産休、育児休業、休職、療養休暇中の職員は除く。

※ 調査対象期間は、令和3年4月1日（木）から回答日までである。

＜回答者数＞公立学校児童生徒数合計：441,060名

高等学校生徒 84,037名 特別支援学校児童生徒 5,564名

小学校児童 236,351名 中学校生徒 115,108名

県立学校職員数合計：11,567名

高等学校職員 7,531名 特別支援学校職員 3,998名

中学校職員 38名

市町村立学校職員数合計：28,994名

小学校職員 18,790名 中学校職員 9,927名

特別支援学校職員 277名

＜調査学校数＞学校数合計：1,113校

市町村立小学校 642校 市町村立中学校 307校

市町村立義務教育学校 3校 市町村立特別支援学校 2校

県立中学校 2校 県立高等学校 121校

県立特別支援学校 36校

2 実施期間

令和3年12月1日（水）から令和4年1月31日（月）まで

3 実施方法

(1) 児童生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

※ 今回の調査から、小学校及び特別支援学校の小学部の児童については、千葉県教育委員会への郵送による提出を可とした。

※ 今回の調査から、調査用紙の性別欄を削除した。

(2) 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

※ 体罰調査は、職員には実施していない。

4 在籍者数及び回答者数

(1) 児童生徒（回答日現在の数値）

児童生徒 年度	県立高等学校			特別支援学校		
	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和3年度	87,519	84,037	96.0%	6,255	5,564	89.0%
令和2年度	89,729	86,590	96.5%	6,243	5,665	90.7%
児童生徒 年度	小学校			中学校		
	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和3年度	256,782	236,351	92.0%	124,267	115,108	92.6%
令和2年度	259,733	248,685	95.7%	122,961	114,723	93.3%

(2) 千葉県教育委員会への郵送による提出の状況について

今回の調査から、小学校及び特別支援学校の小学部の児童については、千葉県教育委員会への郵送による提出を可とした。その状況について、報告する。なお、郵送による提出数は、在籍者数及び回答者数に含まれている。

郵送による提出数	提出児童数に占める郵送数の割合
484	0.20%

※ 提出されたものについては、各教育事務所をとおして各市町村教育委員会に情報提供し、適切に対応した。

(3) 教職員

職員 年度	県立高等学校			県立特別支援学校		
	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和3年度	8,098	7,531	93.0%	4,189	3,998	95.4%
令和2年度	7,566	7,296	96.4%	4,247	3,959	93.2%
職員 年度	県立中学校					
	在籍者数	回答者数	回答率%			
令和3年度	38	38	100%			
令和2年度	38	38	100%			

※ 小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。

セクハラ実態調査の集計結果について

1 児童生徒編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

年度	令和3年度			令和2年度		
	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%
高等学校 (県立)	84,037	174	0.21%	86,590	224	0.26%
特別支援学校 (県立, 市立)	5,564	15	0.27%	5,665	18	0.32%
中学校 (県立, 市町村立)	115,108	136	0.12%	114,723	153	0.13%
小学校 (市町村立)	236,351	56	0.02%	248,685	148	0.06%
合計	441,060	381	0.09%	455,663	543	0.12%

※ セクハラと感じて不快だったと回答した児童生徒の人数が、全体として162人減少した。

※ 調査結果を踏まえ、各学校においてセクハラ相談員等による聴き取りを行ったところ、処分等にあたるものはなかった。

【全体】100人当たり0.09人(0.12人)※()内は令和2年度、小数点第3位を四捨五入

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※ 各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①高等学校（回答人数174）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	合計
性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	31
容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	30
不必要に身体に触られ、不快であった。	30
「男のくせに」、「女のくせに」等と言われ、不快であった。	23
性的なことについて質問され、不快であった。	15
性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった。	3
その他（授業及び生徒指導の場面等での職員の言動に関するもの等）※（4）に抜粋	57

②特別支援学校（回答人数15）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	合計
不必要に身体に触られ、不快であった。	3
容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	2
その他（生徒指導の場面等での職員の言動に関するもの等）※（4）に抜粋	18

③中学校（回答人数136）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	合計
不必要に身体に触られ、不快であった。	58
容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	29
「男のくせに」、「女のくせに」等と言われ、不快であった。	14
性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	11
性的なことについて質問され、不快であった。	4
プライベートな交際を求められ、不快であった。	1
その他（日常のやりとりの場面等での職員の言動に関するもの等）	20

④小学校（回答人数56）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	合計
不必要に身体に触られ、不快であった。	33
容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	8
性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	4
性的なことについて質問され、不快であった。	1
その他（日常のやりとりの場面等での職員の言動に関するもの等）	10

(3) セクハラと感じ不快だったと回答した件数が多かった項目の推移

セクハラと感じ不快であったと回答した主な項目は、ほぼ前年度と同じ傾向であった。

- ① 県立高等学校生徒 ＊（ ）内は令和2年度，[]内は令和元年度。以下、同じ。
- ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.04%（0.06%）[0.05%]
 - ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.04%（0.04%）[0.03%]
 - ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.04%（0.03%）[0.05%]
- ② 特別支援学校児童生徒
- ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.05%（0.05%）[0.06%]
 - ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.04%（0.00%）[0.04%]
- ③ 中学校生徒
- ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.05%（0.05%）[0.11%]
 - ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.03%（0.02%）[0.03%]
 - ・「男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。」 0.01%（0.01%）[0.01%]
 - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.01%（0.02%）[0.04%]
- ④ 小学校児童
- ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.01%（0.02%）[0.02%]
 - ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.00%（0.02%）[0.01%]
 - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.00%（0.01%）[0.00%]

※ 生徒の回答について内容を調査したところ、授業中の職員の冗談や説明の中での性的な言動や、服装頭髪指導等の生徒指導の場面における教職員の対応を不快と感じたものが多かった。

(4) セクハラと捉えた具体的な事柄（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・教師が、「男子だから髪を短くしろ」と指導していたことに疑問をもった。
- ・授業中に先生が、クラス全体に対して、将来の結婚の意思を問うたことに違和感を覚えた。
- ・授業中に先生の話している内容が性的で不快なことがあった。
- ・会話するときに、距離が近くて不快だった。
- ・授業で小説を扱った際、当時の時代背景を説明する中で、「女のくせに」というワードに敏感に反応した。
- ・女子生徒を指導していた男性の先生が、女子トイレまで追いかけてきた。
- ・服装頭髪検査のときに、不快なことを言われた。

2 教職員編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

年度	令和3年度			令和2年度		
	職員	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数
県立高等学校	7,531	41	0.54%	7,296	34	0.47%
県立特別支援学校	3,998	30	0.75%	3,959	21	0.53%
県立中学校	38	0	0%	38	0	0%
合計	11,567	71	0.61%	11,293	55	0.49%

※ セクハラと感じて不快だったと回答した職員の人数は、16人増加した。

※ 調査結果を踏まえ、各学校においてセクハラ相談員等による聴き取りを行ったところ、職員について処分等にあたるものはなかった。

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※ 各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①県立高等学校（回答人数 41）*教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した件数（複数回答）

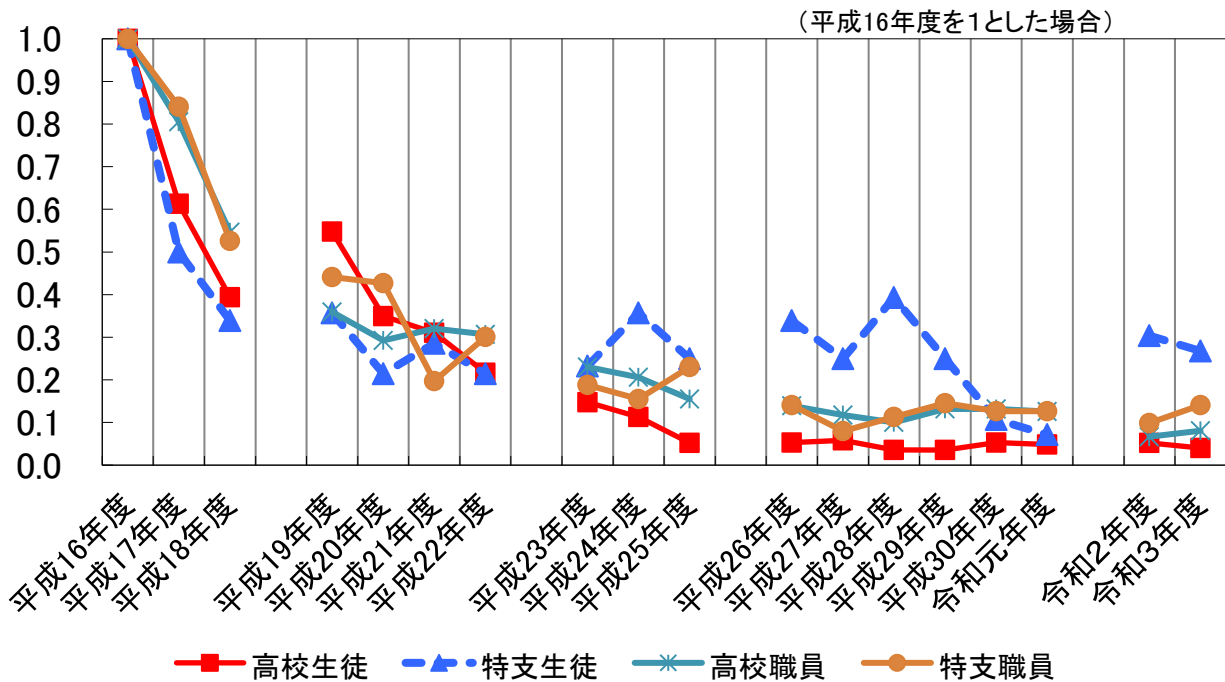
項目	合計
容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	14
性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	7
お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	2
裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	1
性的なうわさを流され、不快であった。	1
性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	1
不必要に身体に触られ、不快であった。	1
その他（職員どうし及び生徒とのやりとりの場面等での言動に関するもの等）	24

②県立特別支援学校（回答人数 30）*教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した件数（複数回答）

項目	合計
容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	14
性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	5
不必要に身体に触られ、不快であった。	3
性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	1
性的な関係を求められ、不快であった。	1
その他（職員どうしのやりとりの場面等での言動に関するもの等）	8

3 セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）

回答数の増減率



4 記名の状況について

※平成18年度調査から アンケートについては、原則記名としている。

児童生徒	県立高等学校		県立特別支援学校	
	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した生徒の割合	記名した児童生徒の割合	セクハラを受けたと回答した児童生徒のうち記名した児童生徒の割合
令和3年度	98.0%	70.4%	93.0%	95.7%
令和2年度	97.5%	76.2%	94.2%	82.1%
令和元年度	96.8%	56.0%	92.8%	66.7%
平成30年度	94.8%	50.0%	92.6%	76.5%
平成29年度	96.1%	53.6%	92.5%	64.3%

記名及び持ち帰って記述させたことの効果（複数回答） ※各学校から記述回答されたものを分類

*回答数 126件 ()内は令和2年度

・迅速で的確な対応が可能となった。	52件	41.3%	(55件)	45.1%
・真面目に記入するようになり信頼性が向上した。	50件	39.7%	(48件)	39.3%
・保護者と相談でき、安心して回答できる。	19件	15.1%	(16件)	13.1%
・セクハラの実態把握が難しくなった。	1件	0.8%	(1件)	0.8%
・その他	4件	3.2%	(2件)	1.6%

5 調査結果に基づき、その後実施した対策の概要について

(1) 生徒に対して（複数回答） ※各学校から記述回答されたものを分類

項目	高等学校	特別支援	全体
セクハラを受けたと記入した生徒本人と面談し、事情を聞いた。	63.4%	55.6%	62.6%
無記名の被害生徒に、相談を受けるよう呼びかけた。	11.0%	0%	9.8%
匿名希望と回答内容を鑑み、追跡調査はしなかった。	8.3%	11.1%	8.6%
無記名のあったクラスの生徒の全員と面談した。	0.7%	0%	0.6%
無記名のあったクラスの見守りを強化した。	2.8%	5.6%	3.1%
追跡の必要のある案件がなかった。	13.8%	27.8%	15.3%

(2) 教職員に対して

- ・全教職員に調査結果を知らせ、セクハラ防止に向け、注意を喚起したり、研修を実施したりしている。
- 【参考】セクハラ実態調査の効果について（各学校で記述回答されたものを集計し、その概要を分類）
- ・全体の88.9%の学校において、セクハラ実態調査は、セクハラ行為に対する抑止力となる、ハラスメントに対する意識が高まる等の面で効果があるとの回答があった。
- ・事例研修や風通しの良い職場づくりが、セクハラ防止の上でも効果があるとした意見が多くあった。
- ・PTAや地域と連携して校内点検を行うことで、セクハラ防止に努めているとした意見が多くあった。
- ・WEBによる回答の方が良いとの意見があった。

6 セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた回答数 *平成28年度からの設問

●セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた人数について

児童生徒においては、令和2年度調査で最も割合が高かった小学校の割合が令和3年度調査で0.20%（463件）となり、令和2年度調査0.53%（1,321件）から大幅に減少している。この他、高等学校は0.22%（183件）、特別支援学校は0.27%（15件）、中学校は0.06%（71件）であった。

なお、各学校でセクハラ相談員等が聴き取りを行ったところ、教員から児童生徒に対するセクハラ以外のハラスメントの具体的相談について、処分等にあたるものはなかった。

生徒 年度	県立高等学校			特別支援学校		
	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和3年度	84,037	183	0.22%	5,564	15	0.27%
令和2年度	86,590	162	0.19%	5,665	23	0.41%
児童生徒 年度	小学校			中学校		
	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和3年度	236,351	463	0.20%	115,108	71	0.06%
令和2年度	248,685	1,321	0.53%	114,723	104	0.09%

※ セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた児童生徒総数は732人であり、その割合は、100人当たり0.17人であった。令和2年度の1,610人から878人減少した。

職員 年度	県立高等学校			県立特別支援学校		
	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和3年度	7,531	108	1.43%	3,998	68	1.70%
令和2年度	7,296	95	1.30%	3,959	58	1.47%

※ 小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。

※ セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた職員総数は176人であり、令和2年度の153人から23人増加した。

※ 調査結果を踏まえ、各学校において管理職やセクハラ相談員による聴き取りを行ったところ、職員について処分等にあたるものはなかった。

セクハラ以外のハラスメントの具体的な事柄の例（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・当たりの強い教員がいる。言葉遣いが悪い教員がいる。厳しく叱責された。
- ・生徒によって、不平等に対応する教員がいる。
- ・授業中に、先生から、問題の出来具合について声掛けをされ、恥ずかしい思いをした。
- ・授業で問題に答えられないことに対して、怒られた。
- ・先生から、「お前は受験でも上手いかないぞ」等のモラルハラスメントを受けた。
- ・部活動中に、顧問の先生から、精神的プレッシャーをかけられた。
- ・部活動顧問の先生に、怪我のために練習を休むと話をしたところ、「本当に怪我なのか」と言われたことに傷ついた。
- ・友人と3人でいたところ、担任の先生から私だけ無視をされたように感じた。
- ・上から目線で発言される。先生という立場からの高圧的な言動があった。
- ・一人の生徒を、皆の前で説教したことが不快であった。

体罰実態調査の結果集計について

1 調査内容

千葉市及び市立高等学校を除く、すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童生徒を対象として、令和3年度中の体罰についてアンケート調査を実施し、新たに体罰の事実を確認した件数及び事案の概要を各県立学校及び各市町村教育委員会から報告する。

2 調査結果

実態調査の結果、生徒が体罰として記入したのは0件であった。

なお、令和元年度調査は1件であった。

(1) アンケートから確認し、体罰の疑いがあると報告された件数

学校種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
令和3年度	0	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0	0
令和元年度	0	0	1	0	1

(2) 発生の場面について

発生の場面	部活動中	授業中	その他	合計
令和3年度	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0
令和元年度	1	0	0	1

3 体罰の事案での令和3年度中の処分の状況について（令和4年3月31日現在）

体罰の事案での処分の状況について

学校種	免職	停職	減給	戒告	訓告等	合計
小学校	0	0	0	0	0	0
中学校	0	0	0	0	0	0
高等学校	0	0	0	0	0	0
特別支援学校	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0

4 令和3年度に千葉県教育委員会の実施した体罰根絶の取組例

県初任者研修会や中堅教諭等資質向上研修会、体育主任研修会等において体罰根絶について指導した。指導の中で、リーフレット「体罰なんかいらぬ！」を全参加者に提示し、「体罰根絶宣言」の周知徹底を図った。

また、不祥事防止対策有識者会議の委員を講師とした「研修動画」を配信し、各学校において動画研修を実施し、報告を求めた。

問い合わせ

教育振興部教職員課管理室

電話 043-223-4036